

公益社団法人 NEXT VISION
令和4年度事業報告書
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

I. 実施事業

1. 視覚障害者に対する直接支援事業（公益目的事業①）

(1) 当事者向け講座、セミナー事業

遠隔で当事者、家族、支援者への情報提供を行い、地域性による情報格差を軽減し、全国の情報障害者を減らします。

1) ビジョンパークチャンネル

登録者数：698人

iPhone・iPad活用ラウンジ、ロービジョンの集いなどのイベントをオンラインで開催し、動画および音声をビジョンパークチャンネルに公開しました。

<https://www.youtube.com/@nextvision3230>

(総評)

コロナ禍以降はビジョンパークで実施していたイベントをZoomを使ったオンライン開催に変更したことで参加者が増加、リアルタイムに参加できない方がいつでも視聴できるよう、ビジョンパークチャンネルで動画を公開したことでさらに多くの方に情報をお届けすることができました。

居住する地域を問わない情報処方を行うことができ、お一人お一人のニーズに合った情報提供及びテクノロジー支援を行いました。

参加者は視覚障害者だけでなく、支援者やご家族も含まれていたことから、今後は医療従事者や教育関係者も含めてより多くの方に、情報提供およびロービジョンケアに関する理解を広めるために、得られた運営・開催方法に関する知見を活かして本事業を継続したいと考えます。

2) iPhone・iPad活用ラウンジ

開催日・ゲスト名・オンライン参加人数・内容

2022/4/25 ゲスト：石川准さん 参加者 129名

ゲストは、2022年3月末まで静岡県立大学国際関係学部教授だった石川 准さんをお迎えし、これまでのご自身の取り組みやICTの便利な活用法、そして未来の展望をお伺いしました。石川さんは現在、内閣府障害者政策委員会 委員長としてご活躍されています。支援工学分野の研究として、日本語英語自動点訳プログラムエクストラの開発、点字携帯情報端末であるブレイルセンスの日本語対応、GPS 歩行支援システムなど先進的な研究開発をされています。

2022/5/23 ゲスト：相沢浩貴さん 参加者 155名

LINE オープンチャット「VoiceOver コミュニティ」を立ち上げた相沢浩貴さんをゲストにお迎えし、見えにくくなり暗黒の時代からiPhone4を持って、世界が変わったというエピソードから、現在準備中のNPOで実現したいビジョンを熱く語っていただきました。

2022/6/27 ゲスト：吉泉豊晴さん 参加者 114名

日本視覚障害者団体連合の情報部長である吉泉豊晴さんをゲストにお迎えし、ご自身がiPhoneの講座で取り残されたというエピソードから現在は便利なツールとして活用されているお話をお聞かせいただきました。

タクシー利用で使っているアプリの紹介では、デジタルとアナログの両面が生かされた興味深いお話を聞くことができました。

また、日視連で行った視覚障害者の情報機器の活用に関する実態調査の結果や今後の展望として、AIの手法を使ってみた感想も紹介していただきました。

2022/7/25 ゲスト：斎藤正夫さん 参加者 117名

株式会社アクセス・テクノロジー 代表取締役社長の斎藤正夫さんをごゲストにお迎えし、我が国初のスクリーンリーダー開発のお話から、現在盲導犬と共に歩く上で欠かせないiPhoneのアプリの活用法をお話していただきました。

視覚障害者の困難をエレクトロニクスの技術やコンピュータのプログラミングで解決してこられた取り組みをたっぷりとお話していただきました。

2022/8/22 ゲスト：東京都障害者 IT 地域支援センターさん 参加 112名

ゲストには、iPhone・iPadなどのアプリの情報をWebページで公開している東京都障害者IT地域支援センターの担当者をお迎えし、センターの事業内容を詳しく紹介していただきました。また、国際福祉機器展 HCR2022に出展するコーナーの取り組みについてもお話ししていただきました。

2022/9/26 ゲスト：荒川明宏さん 参加者 113名

ゲストには、株式会社ラビット代表取締役社長で、サイトワールド実行委員長の荒川明宏さんをお迎えし、ご自身の就職時から会社設立までの熱い思いをお聞きしました。

また、iPhoneの文字入力を電車の中で携帯してキー入力するQwertyCaseの活用法や便利に使っているアプリなども紹介していただきました。

2022/10/24 ゲスト：辻勝利さん 参加者 91名

ゲストには、NVDA日本語チーム代表の辻勝利さんをお迎えし、視覚障害者が対等に活躍できるアクセシブルが当たり前の中に変えたいとの熱い思いをお話していただきました。

また、辻さんが日本語化に協力した視覚障害者が楽しめるゲームの紹介やアップルTVプラスの楽しみ方などもお話ししていただきました。

2022/11/28 ゲスト：渡辺哲也さん 参加者 100名

ゲストには、新潟大学工学部教授の渡辺哲也さんをお迎えし、視覚障害者のICTに関する研究を中心にお話をお聞きしました。

日本で最初のGUIベースのWindows用のスクリーンリーダーの開発のお話から、iPhoneのボイスオーバーの日本語の漢字の詳細読みを採用された漢字の読みの研究など興味深いお話をお聞きできました。

最近の取り組みとして、視覚障害者と触地図、視覚障害者と3Dプリンタに関する研究の成果を、渡辺先生の研究室のホームページからリクエストできる耳よりの情報もお聞きできました。

2022/12/26 ゲスト：高知システム開発さん 参加者 110名

点每文化賞を受賞された高知システム開発さんをお迎えし、取り組みをご紹介いただきました。また、来年発表予定のソフトウェアの新機能についてもお聞きできました。

2023/1/23 ゲスト：小田浩一さん 参加者 117名

ゲストには、東京女子大学教授の小田浩一さんをお迎えし、パソコン黎明期から視覚障害者に対するITの活用を推進された取り組みから未来のデジタル化のお話までとても興味深いお話をお聞きできました。

スピーディーワンダーも使用していたユリーカ A4 というオーストラリアの Robotron 社製の視覚障害者用点字入力音声パソコンの日本語対応の開発に関わられたお話、iPad で MNREAD-J という読書評価チャートの測定ができるアプリの紹介と将来の可能性もお話していただきました。

2023/2/27 ゲスト：日本視覚障がい情報普及支援協会さん 参加者 114 名
特定非営利活動法人日本視覚障がい情報普及支援協会 (JAVIS) さんをお迎えし、取り組みをご紹介していただきました。

20 年目を迎える JAVIS の活動の内容、音声コード Uni-Voice で、紙のパンレットや封書、年金額や処方箋薬剤情報などの情報を音声で確認できるシステムのこと、さらに、紙媒体だけでなく新たにオンラインのデジタル情報にアクセスする新たな取り組みについても、ご紹介していただきました。

2023/3/27 ゲスト：氏間和仁さん 参加者 111 名
今回は、広島大学大学院教育学研究科准教授の氏間和仁さんをお迎えし、取り組みをご紹介していただきました。

氏間研究室では、ICT を活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実のための研究や実践を行っておられます。

ご自身が弱視児童生徒として盲学校で学び、盲学校の理療科教員から大学教員となり、視覚障害者をはじめとする幅広い年代の方の ICT の積極的な活用の支援をされておられる取り組みから今後の展望までをお聞きできました。

(総評)

視覚障害支援に関わる先人たちから多くの知見を学ぶことができました。4 月以降は過去に登壇いただいたスペシャルゲストとのさらなる深掘り対談やさまざまなテーマを設定して変化に飛んだ対話会を継続していく予定です。

3) 研修

●NEXT VISION セミナー

2022/6/5 第 6 回 未来の眼科診療はどう変わる? 講師：高橋政代 参加者：140 名

2022/12/8 第 7 回 神戸 i クリニックとオンライン診療 講師：高橋政代 参加者：45 名

2022/12/11 第 8 回 神戸 i クリニックとオンライン診療 講師：高橋政代 参加者：188 名

2023/3/14 第 9 回 神戸 i クリニックとオンライン診療 講師：高橋政代 参加者：128 名

●企業向けセミナー

2022/9/7 参天製薬株式会社

●研修見学

2022/4/26、5/13、5/16、6/22 神戸アイセンター病院誘導研修 対象：新入職員

2022/8/19 日本ライトハウス 対象：研修生

2022/8/26 大阪医療福祉専門学校講義 対象：視能訓練士学科学生

2022/9/13 徳島県立障がい者交流プラザ視聴覚障がい者支援センター対象：施設利用者

2022/11/9、11/30 神戸アイセンター病院全体研修 対象：全職員

●「私の見え方・見えにくさ」伝え方講座

本講座は対面での講習であり、新型コロナ感染拡大対策のため開催できませんでした。

●寄り添い方講座

本講座は対面での講習であり、新型コロナ感染拡大対策のため開催できませんでした。

(総評)

いずれの研修も参加者の利便性を考え、対面だけでなくオンラインによるセミナーを開催しました。

コロナ禍で実習ができない視能訓練士を目指す学生に対しては、オンラインで講義を行うことで、卒業後の実践に必要な知識の習得につながったと考えます。

さまざまな立場の人々が必要とする情報や知識を適切なタイミングで提供できるよう、次年度以降もセミナーの開催を予定しています。

●心の眼プロジェクト

「しんがん（心眼・真眼）～視覚障害ってなに？視覚障害者ってどんな人？

をみんなで考えるラップ講座～」

2022年10月から2023年3月まで、全4回の「しんがん（心眼・真眼）～視覚障害ってなに？視覚障害者ってどんな人？をみんなで考えるラップ講座～」を22名の受講者を対象に開催しました。

2022/12/3 晋平太氏と対面講座 場所：神戸アイセンター（ビジョンパーク）

2023/1/28 リモート講座

2023/2/25 リモート講座

2023/3/25 晋平太氏と対面講座・ラップ発表 場所：神戸アイセンター（ビジョンパーク）

最終成果物としてフリーラッパー晋平太氏がオリジナルラップ「ひかり」を制作しました。https://youtu.be/rD-IULMzk_E

動画は一般社団法人日本ラップ協会のYouTubeチャンネルを通じてNEXT VISIONのウェブサイト等で公開する予定です。<https://www.youtube.com/@RapAssociation>

本プロジェクトについて神戸新聞に掲載された記事

https://www.kobe-np.co.jp/news/kobe/202303/sp/p1_0016183675.shtml

(総評)

参加者からは

- ・言葉にあらわせないくらいめっちゃめっちゃ感動しています。
- ・何度も何度も拝聴して、その度にやる気と元気と勇気がみなぎってきています。
- ・素敵な楽曲をありがとうございました。

といった感想が寄せられており、ラップ講座を通じて参加者一人一人が自分自身の病気や障害に向き合い、内省できたことで障害受容につながったと考えます。

また、このラップが社会に広がることで視覚障害や視覚障害者の理解につながるものと考えており、今後もSNS等を使った拡散に努めます。

●第4回視覚障害者雇用の未来を考えるフォーラム

2022/11/23 参加者：230名

今年もコロナ禍の状況下、昨年同様、完全オンラインで実施しました。

第一部として「証券会社での業務に加えて、コーチングという副業を実施している当事者」「日本で初めて全盲の保育士として勤務している当事者」「通信営業職という新しい試みにチャレンジしている企業で勤務する当事者」から就労の可能性について発表していただきました。

第2部では、パネルディスカッション形式にて、当フォーラムの大きなテーマでもある「視覚障害者の就労についての現状と課題、そして未来への可能性」について、今年第一部の発表から見えてくる「今まで気づいていなかった可能性」も踏まえて議論を行いました。

音声

第1部 就労継続体験発表 <https://youtu.be/d6mrHsxW-jU>

第2部 パネルディスカッション <https://youtu.be/0felrxhzipVc>

(総評)

申込者も増加し、開催案内を所属団体の広報誌で紹介したいとの連絡があったり、当日の資料の問い合わせやアーカイブの希望など連絡をいただき、4回目となる本イベントの認知度や期待が高くなりました。

また、参加者も視覚障害当事者、支援者だけでなく、行政、民間企業等多様な職種の方が参加され、広がっています。厚労省の雇用対策課の小野寺課長にもご参加いただきました。

就労事例の発表は、多くの参加者に勇気を与える内容で、視覚障害者の就労の困難さや解決の手がかりとなる充実した内容だったと高く評価していただきました。パネルディスカッションも視覚障害者の就労の可能性を広げる有意義な議論ができました。引き続き関係団体と協力して就労問題の解決に取り組みたいと思います。

●職場ぐるみで取り組む社内アクセシビリティ

2023/3/5 参加者：270名

本イベントは、視覚障害者の就労問題として、見えない、見えにくい社員も共に働きやすい環境の実現を目的に認定NPO法人タートルとの共催イベントとして本年初めて開催しました。

isee! Working Awards で受賞された視覚障害者と共にインクルーシブな職場を実現している3つの企業に取り組みを紹介していただきました。企業の一員として専門知識を生かしながら生き生きと働く視覚障害者と、同じ企業で働く晴眼者が登壇し、チームとして働く上での取り組みや、工夫、互いの気づきなどを発表していただきました。

動画

<https://youtu.be/jQRJ8si0hRk>

(総評)

事後アンケートの結果では、高評価をいただきました。寄せられた意見としては、「他の組織での具体的な取り組みを詳しく聞けた」「受け入れる企業、人がどう考えているのか知ることができた」「当事者・晴眼者、それぞれの立場の意見が聞けた」など大変参考になったという意見を多数いただきました。

isee! Working Awards で受賞された企業の取り組みを広く社会に発信することが、障害者も共に働くインクルーシブな企業を目指す指針として、社会が目指すべき「持続可能な共生社会」の実現につながることを確信しました。今後もこのような取り組みを継続したいと思います。

● 視野障害者の安全運転支援プロジェクトセミナー

視野障害者の安全運転支援プロジェクトの啓発活動として下記セミナーの開催に協力しました。

2022/7/31 運転外来ってどんなことをするの？～安全運転に必要な、ためになる話

講師：國松志保先生

開催形式：オンライン

参加人数：103名（申込188名）

動画：<https://youtu.be/CHU2MHshXuQ>

2022/11/13 視野障害があっても技術の支援で安全な運転はできる？

講師：伊藤 誠先生

開催形式：オンライン

参加人数：64名（申込118名）

動画：<https://youtu.be/Y6Dgl--Jin8>

2023/3/5 緑内障のた目（め）になる話

講師：國松志保先生

開催形式：オンライン

参加人数：76名（申込120名）

動画：https://youtu.be/zPC_5kAinZ4

（総評）

視野に障害があっても、自分の見え方や運転時に注意すべき点を知ることによって運転を継続できる可能性があり、正しい知識や情報を得たうえで運転していただくことが重要です。また、視野に障害があると気づかず運転をしている方には、本セミナーを通して眼科検診をおすすめすることで病気の早期発見、治療につながり、ひいては交通事故の低減につながるものと考えます。

今後もこのようなセミナー実施に協力することで、視覚障害に関連するあらゆる課題の解決につなげていく予定です。

（2）当事者向け体験事業

見えない・見えにくい方を対象として、スポーツや映画鑑賞など様々な文化体験をしてもらい、晴眼者と同じように趣味や生きがいを見つけて社会生活を楽しむ機会を設けることで、見えない・見えにくい方の社会復帰、社会の戦力化を支援する活動等を行います。

1) eスポーツ G-1グランプリ

ゲームのアクセシビリティ（障害者補助機能）機能の紹介や、ツール活用などの工夫・アイデアを共有し、娯楽の教育的意義を考えるイベントを実施しました。

2023/2/19 第3回 参加者：29名（うちエントリー：10名）

賞名・受賞者名

グランプリ作品賞 ギアラチャンネル

キッズ作品賞 つか君

特別作品賞 松尾政輝

動画公開：

<https://nextvision.or.jp/g->

[1/e3%82%b0%e3%83%a9%e3%83%b3%e3%83%97%e3%83%aa%e3%80%80%e7%ac%ac3%e5%9b%9e%e9%96%8b%e5%82%ac%e5%8b%95%e7%94%bb/](https://nextvision.or.jp/g-1/e3%82%b0%e3%83%a9%e3%83%b3%e3%83%97%e3%83%aa%e3%80%80%e7%ac%ac3%e5%9b%9e%e9%96%8b%e5%82%ac%e5%8b%95%e7%94%bb/)

(総評)

社会処方の一環として、ゲームを通したコミュニケーションや社会参加を支援する企画で、視覚障害者や肢体不自由の当事者たちによるアイデアを共有することに始まり、ゲームが持つ社会性や教育効果について当事者でもある教育者や当事者とゲームのアクセシビリティ機能の現状や今後の期待などを3時間に渡り対話しました。

本企画を通して、ゲームによる障害種別を超えたコミュニケーション活性化や社会的接続強化といった社会的意義や効果について確かな手応えを感じており、今後社会的処方箋としてゲームの教育効果や社会的・心理的回復効果を検証していく予定です。

次年度もeスポーツの実施、ゲームアクセシビリティの知識処方を行い、障害種別を超えた参加者による、ゲームを通した対話文化の醸成を目指します。

2) クライミング

新型コロナウイルス感染拡大対策のため開催できませんでした。

(総評)

本年度は昨年につきコロナに伴い実施することはできませんでしたが、コロナも落ち着きを見せているため、今後は開催形式の見直しも含めて再開を検討していく予定です。

3) 体幹トレーニング

2022/4/22 参加者：28名
2022/5/20 参加者：29名
2022/6/17 参加者：32名
2022/8/26 参加者：27名
2022/9/16 参加者：27名
2022/10/21 参加者：29名
2022/11/25 参加者：22名
2022/12/16 参加者：28名
2023/1/20 参加者：32名
2023/2/24 参加者：40名
2023/3/17 参加者：28名

(総評)

オンラインを活用し画面を通して、あるいは音声のみで運動を行っていただくことができました。

ご自宅だけでなくオフィスや病院の待合室など外出先からの参加者がいました。今後も場所を問わず、年齢や性別に関係なく、どなたでも行える体幹トレーニングは心と体の健康維持・健康増進の役割を担っていくと思いますが、時間や回数を増やしてほしいという要望があることから次年度以降は有料事業として実施を検討しています。

4) チャレンジド・ヨガ (オンライン無料体験会)

2022/11/30 椅子ヨガ 30分+サットサンガ (お話し会) 参加者：35名

(総評)

チャレンジド・ヨガの協力を得て、ハイブリッド形式で開催しました。オンライン参加者は外出することなく自宅で気軽に楽しめただけでなく、ビジョンパークでは10名が対面参加したことで、病院にいられていた患者さんがヨガに興味を持つきっかけになりました。次年度も継続して、ハイブリッドで開催する予定です。

5) 視覚活用訓練

毎月主として第四金曜日にビジョンパークで原田理事が行った訓練事業です。午前を再診枠、午後を初診枠として設定し、合計 26 名の希望者に対して、有償で訓練を行いました。対象者の主な眼疾患は、網膜色素変性(7名)、緑内障(7名)等による視野欠損と黄斑変性(3名)等による中心暗点、頭蓋内疾患(3名)による同名半盲でした。保有視野を有効に活用するためのノウハウについて紹介し、目を動かしながら、そのコツを体得するトレーニングを行なっています。

(総評)

アイセンター病院からの紹介者の初回は無料とし、2回目からは相談料として 3000 円を頂きました。少しずつ再診の方が増えてきています。本事業を通して、参加者の方は、それまでに自覚していなかった保有視覚を認識し、生活上の安全と安心を獲得できたと喜ばれています。現時点では科学的な証拠を得ることができていませんが、今後はそれも得られるように事業計画を立てていきたいと考えています。

(3) カウンセリング事業

1) ロービジョンの集い

内容：見えない・見えにくい当事者を中心にご家族や支援の専門家などが集まり、日常生活での困りごとや情報の共有を行うほか、誰もが気軽に相談ができる集いの場を提供しました。

開催方法：オンライン

対象：視覚障害者、一般 全 13 回の参加者数：842 名

2022/4/27 第 112 回「Ashirase (あしらせ) について聞いてみよう」 参加者：112 名
<https://nextvision.or.jp/%e7%ac%ac112%e5%9b%9e-%e3%83%ad%e3%83%bc%e3%83%93%e3%82%b8%e3%83%a7%e3%83%b3%e3%81%ae%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8c%ashirase%ef%bc%88%e3%81%82%e3%81%97%e3%82%89%e3%81%9b%ef%bc%89%e3%81%ab%e3%81%a4/>

2022/5/31 第 113 回「こころとからだの健康を考える集い」 参加者：5 名
<https://nextvision.or.jp/%e7%ac%ac113%e5%9b%9e%e3%80%8c%e3%81%93%e3%81%93%e3%82%8d%e3%81%a8%e3%81%8b%e3%82%89%e3%81%a0%e3%81%ae%e5%81%a5%e5%ba%b7%e3%82%92%e8%80%83%e3%81%88%e3%82%8b%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8d/>

2022/7/10 第 114 回「ガズレレ！YouTube で簡単ウクレレ！でおなじみのガズさん初登場！」 参加者：62 名
<https://nextvision.or.jp/7%e6%9c%8810%e6%97%a5%ef%bc%88%e6%97%a5%ef%bc%89%e3%80%80%e7%ac%ac114%e5%9b%9e%e3%83%ad%e3%83%bc%e3%83%93%e3%82%b8%e3%83%a7%e3%83%b3%e3%81%ae%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8c%e3%82%ac%e3%82%ba%e3%83%ac/>

2022/7/26 第 115 回「将来の夢や進路を考える集い」 参加者：5 名
<https://nextvision.or.jp/%e7%ac%ac115%e5%9b%9e%e3%80%8c%e5%b0%86%e6%9d%a5%e3%81%ae%e5%a4%a2%e3%82%84%e9%80%b2%e8%b7%af%e3%82%92%e8%80%83%e3%81%88%e3%82%8b%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8d/>

2022/8/21 第 116 回「加齢黄斑変性とは～予防方法から治療～」 参加者：98 名
<https://nextvision.or.jp/8%e6%9c%8821%e6%97%a5%ef%bc%88%e6%97%a5%ef%bc%89%e3%80%80%e7%ac%ac116%e5%9b%9e%e3%83%ad%e3%83%bc%e3%83%93%e3%82%b8%e3%83%a7%e3%83%b3%e3%81%ae%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8c%e3%82%ac%e3%82%ba%e3%83%ac/>

[%81%ae%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8c%e5%8a%a0%e9%bd%a2%e9%bb%84/](https://nextvision.or.jp/9/e6%9c%886%e6%97%a5%ef%bc%88%e7%81%ab%ef%bc%89%e3%80%80%e7%ac%ac117%e5%9b%9e%e3%83%ad%e3%83%bc%e3%83%93%e3%82%b8%e3%83%a7%e3%83%b3%e3%81%ae%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8c%e5%8a%a0%e9%bd%a2%e9%bb%84/)

2022/9/6 第117回 「LinkBudシリーズ開発秘話とその可能性」参加者：109名
<https://nextvision.or.jp/9/e6%9c%886%e6%97%a5%ef%bc%88%e7%81%ab%ef%bc%89%e3%80%80%e7%ac%ac117%e5%9b%9e%e3%83%ad%e3%83%bc%e3%83%93%e3%82%b8%e3%83%a7%e3%83%b3%e3%81%ae%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8c%e5%8a%a0%e9%bd%a2%e9%bb%84/>

2022/9/27 第118回 「家事や趣味を楽しむ集い」参加者：141名
<https://nextvision.or.jp/%e7%ac%ac118%e5%9b%9e%e3%80%8c%e5%ae%b6%e4%ba%8b%e3%82%84%e8%b6%a3%e5%91%b3%e3%82%92%e6%a5%bd%e3%81%97%e3%82%80%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8d/>

2022/10/25 第119回 「プロのオペレーターってどんな感じだろう？「アイコサポート」について」参加者：88名
<https://nextvision.or.jp/10/e6%9c%8825%e6%97%a5%ef%bc%88%e7%81%ab%ef%bc%89%e3%80%80%e7%ac%ac119%e5%9b%9e%e3%83%ad%e3%83%bc%e3%83%93%e3%82%b8%e3%83%a7%e3%83%b3%e3%81%ae%e9%9b%86%e3%81%84%e3%83%97%e3%83%ad%e3%81%ae%e3%82%aa/>

2022/11/29 第120回 「人生を語り楽しむ集い」参加者：27名
<https://nextvision.or.jp/%e7%ac%ac120%e5%9b%9e%e3%80%8c%e4%ba%ba%e7%94%9f%e3%82%92%e8%aa%9e%e3%82%8a%e6%a5%bd%e3%81%97%e3%82%80%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8d/>

2022/12/7 第121回 「冬の長い夜を楽しもう！ テレビ、ラジオ、動画配信サービスなどあなたのおすすめを教えてください」参加者：70名
<https://nextvision.or.jp/12/e6%9c%887%e6%97%a5%ef%bc%88%e6%b0%b4%ef%bc%89%e3%80%80%e7%ac%ac121%e5%9b%9e%e3%83%ad%e3%83%bc%e3%83%93%e3%82%b8%e3%83%a7%e3%83%b3%e3%81%ae%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8c%e5%86%ac%e3%81%ae%e9%95%b7/>

2023/1/31 第122回 「見えない、見えにくい子どもさんを持つ親の集い」参加者：19名
<https://nextvision.or.jp/%e7%ac%ac122%e5%9b%9e%e3%80%8c%e8%a6%8b%e3%81%88%e3%81%aa%e3%81%84%e3%80%81%e8%a6%8b%e3%81%88%e3%81%ab%e3%81%8f%e3%81%84%e5%ad%90%e4%be%9b%e3%81%95%e3%82%93%e3%82%92%e6%8c%81%e3%81%a4%e8%a6%aa/>

2023/2/14 第123回 「関西初上陸！ 視覚障がい者向けナビゲーションシステム shikAI（シカイ）」参加者：101名
<https://nextvision.or.jp/2/e6%9c%8814%e6%97%a5%ef%bc%88%e7%81%ab%ef%bc%89%e3%80%80%e7%ac%ac123%e5%9b%9e%e3%83%ad%e3%83%bc%e3%83%93%e3%82%b8%e3%83%a7%e3%83%b3%e3%81%ae%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8c%e9%96%a2%e8%a5%bf%e5%88%9d/>

2023/3/28 第124回 「仕事や家族のことを考える集い」参加者：5名
<https://nextvision.or.jp/%e7%ac%ac124%e5%9b%9e%e3%80%8c%e4%bb%95%e4%ba%8b%e3%82%84%e5%ae%b6%e6%97%8f%e3%81%ae%e3%81%93%e3%81%a8%e3%82%92%e8%80%83%e3%81%88%e3%82%8b%e9%9b%86%e3%81%84%e3%80%8d/>

(総評)

2021年度に引き続きオンラインにて開催しました。オンライン開催となり、参加者が増えたことで本来の目的である生活での困りごとや悩みを誰もが気軽に相談ができるという雰囲気は失われてしまう可能性があったことから、テーマごとに参加者を限定し、オンラ

インであっても話しやすい環境を作り、心理的安全性を担保しました。

居住地に関係なく、知りたい情報、必要な情報を自宅や職場からに入手できたと喜ばれました。

2) 相談コーナーの運営

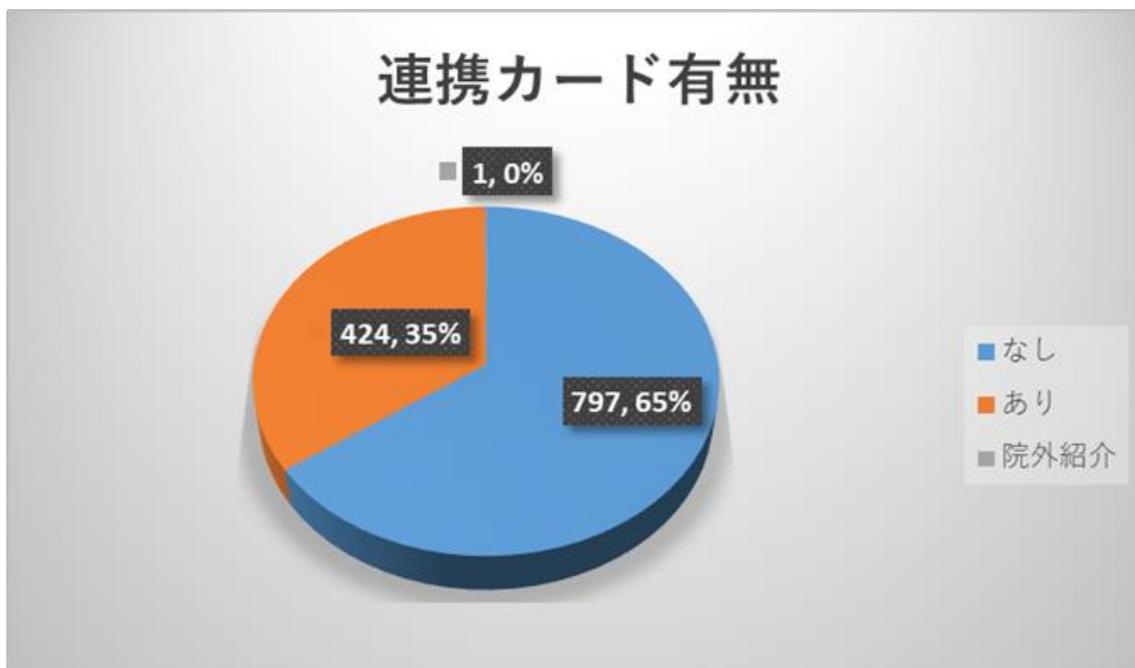
神戸アイセンターでは、「神戸アイセンター病院×ビジョンパーク連携カード」という連携カードによって神戸アイセンター病院の医師や視能訓練士、看護師などがロービジョンに関する情報提供が必要と感じたときに連携カードを発行する取り組みを行いました。

	2022						2023						合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
カードあり	50	21	46	34	34	32	36	26	37	30	33	46	425
カードなし	82	93	90	65	54	36	79	61	55	54	63	67	799
計	132	114	136	99	88	68	115	87	92	84	96	113	1,224

(表1) 相談件数 (件)

2022年度の相談件数は、連携カードありの相談が425件、連携カードなしの相談が799件、合計1,224件となりました。(表1)

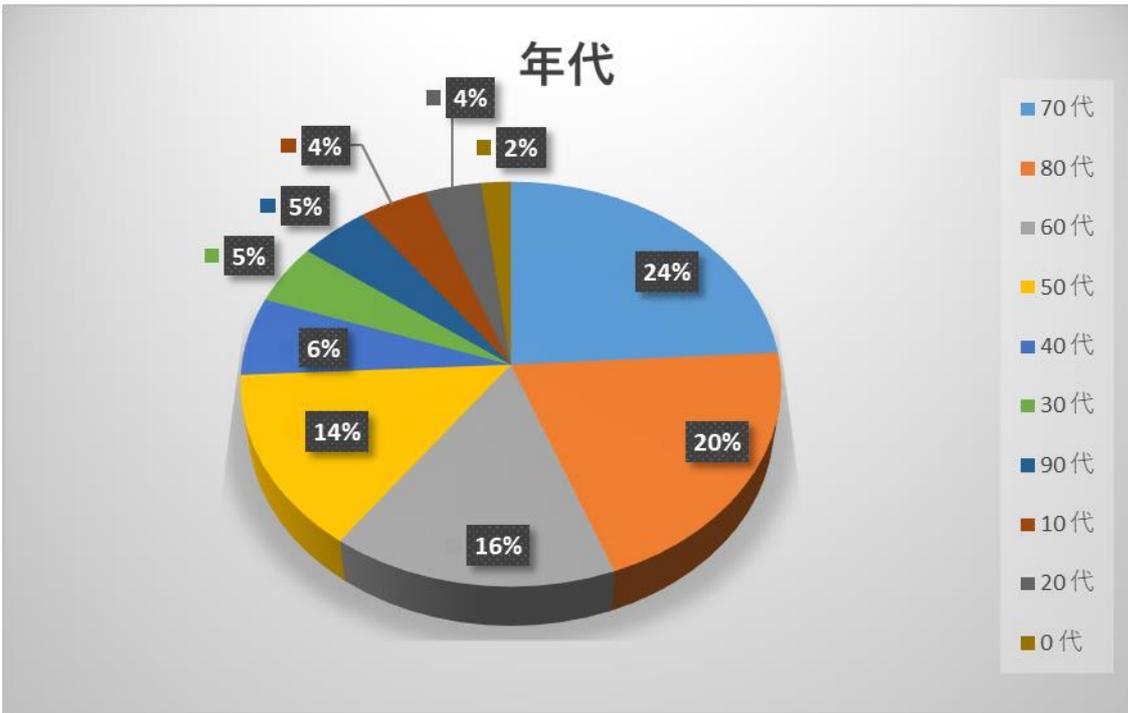
2021年度は連携カードありの相談が309件、連携カードなしの相談が587件、合計896件だったので2022年度の相談は約37%増となりました。



(図1) 連携カード有無による相談件数 (割合)

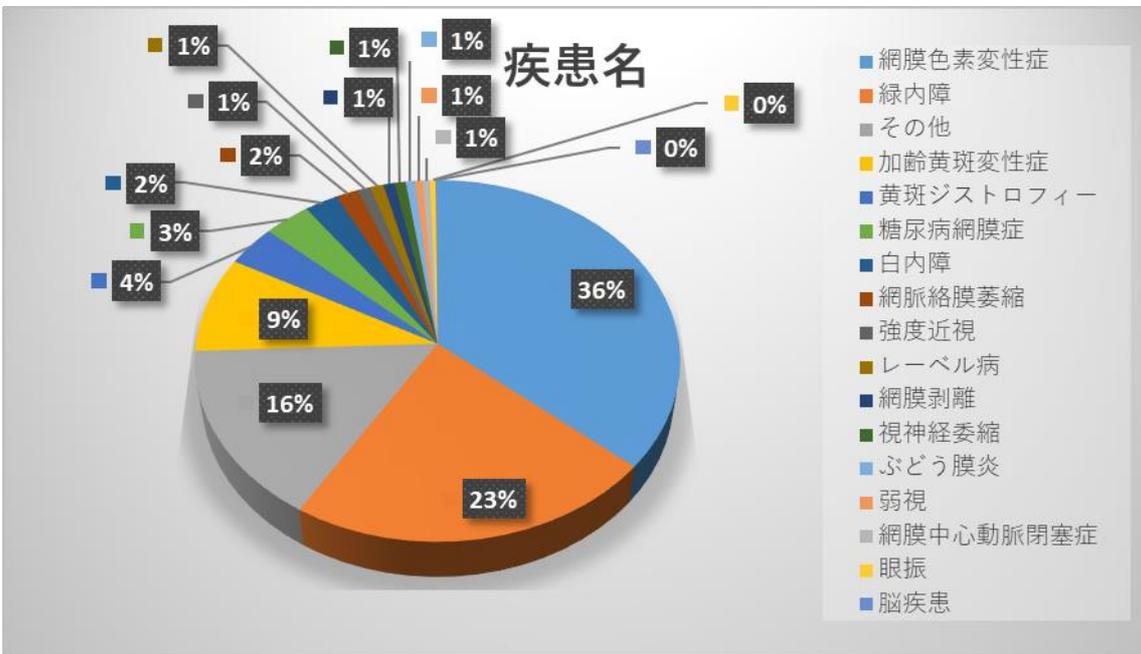
また、連携カードなしの相談には近隣の病院・クリニックからの紹介1件が含まれていました。(図1)

対応した相談者の年齢については60歳代以上が60%となりました。(図2)



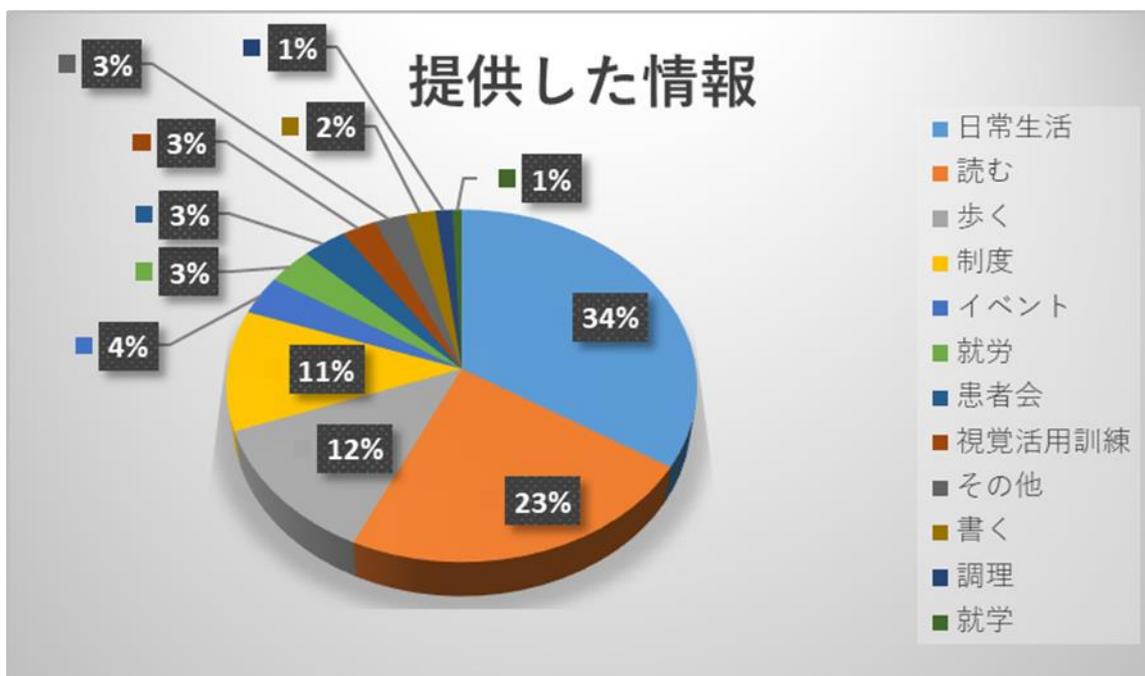
(図2) 相談者の年代 (割合)

対応した疾患は網膜色素変性が36%、緑内障が23%で全体の約6割でした。(図3)



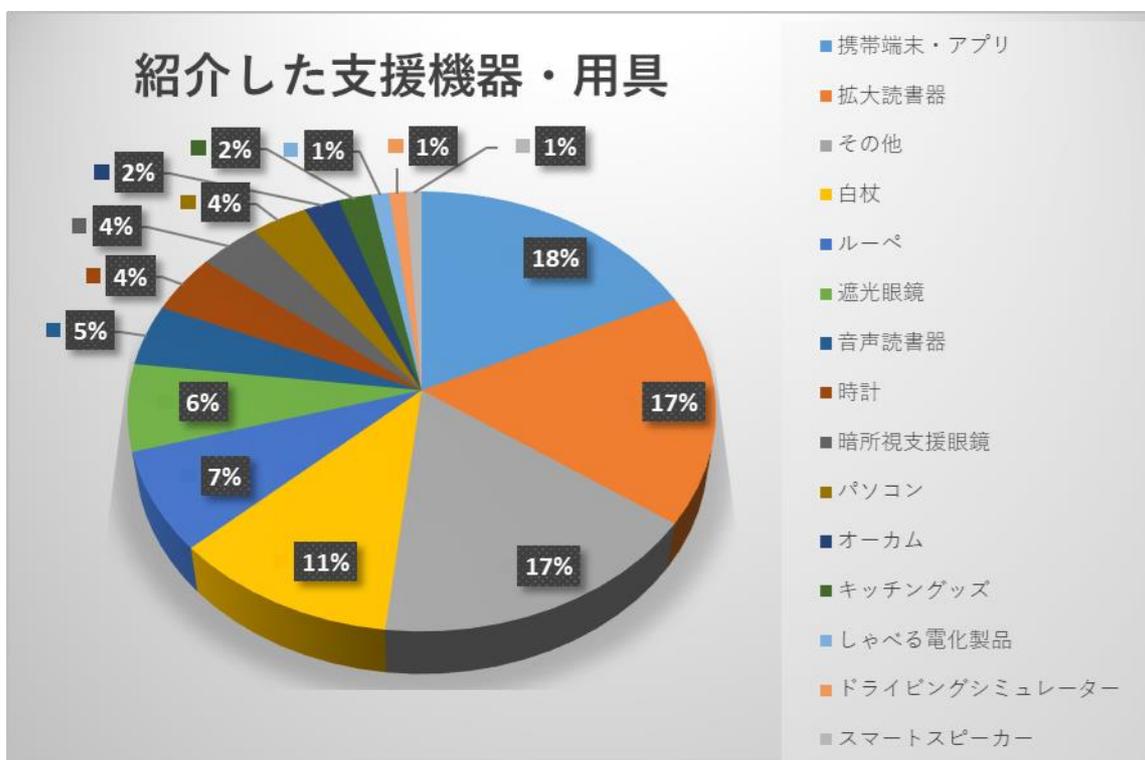
(図3) 相談者の疾患名 (割合)

相談を受けて提供した情報の内容は多岐に渡りますが、日常生活に関する相談が34%、読みに関する相談が23%、歩行に関する相談が12%、身体障害者手帳や障害年金に関する相談が11%でした。(図4)



(図4) 相談で提供した情報の内容 (割合)

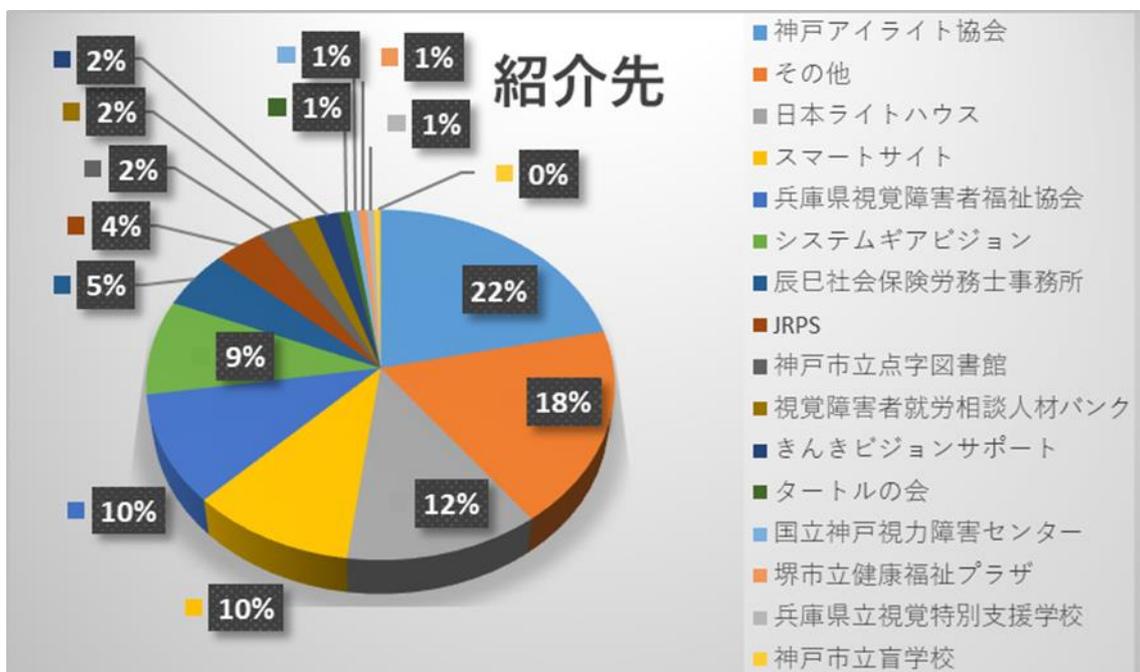
相談を受けて紹介した支援機器や用具は、携帯端末・アプリが18%、拡大読書器が17%、白杖が11%でした。(図5)



(図5) 紹介した支援機器・用具 (割合)

なお、表2、表3はそれぞれ件数ですが、相談件数 1,224 件を超えていることから相談

する困りごとや悩みが一つでなく重複していることがわかりました。このように多岐に渡る相談内容に対応するため、下記の支援機関や団体をご紹介しました。(図6、表2)



(図6) 紹介した支援機関・団体 (割合)

紹介先	件数
神戸アイライト協会	268
日本ライトハウス	153
スマートサイト	129
兵庫県視覚障害者福祉協会	126
システムギアビジョン	109
辰巳社会保険労務士事務所	67
JRPS	46
神戸市立点字図書館	31
視覚障害者就労相談人材バンク	26
きんきビジョンサポート	23
タートルの会	10
国立神戸視力障害センター	8
堺市立健康福祉プラザ	8
兵庫県立視覚特別支援学校	7
神戸市立盲学校	6
その他	227
	1,244

(表2) 紹介した支援機関・団体 (件数)

紹介する支援機関や団体がビジョンパークで直接相談を受けてくださる活動が定着しており、2022年度は12機関・団体が計235回の相談を行いました。(表5)。新型コロナウイルス感染対策として対面相談ができない機関・団体もオンライン対応として、事務所待機・随時対応をしてくださいました。

全体的には、相談コーナーの開設回数は前年の207件から14%増の235回となっており、対面による相談対応が増加傾向にあります。

団体名	実施回数
網膜色素変性症協会（生活とピアサポート）	42
神戸アイライト協会（生活・就労相談）	15
日本ライトハウス情報文化センター（生活相談・サピエ体験）	11
日本ライトハウスリハビリテーションセンター（生活・就労相談）	0
神戸視力障害センター（生活・就労相談）	5
Gラウンジ（iPhone/iPad相談）	12
神戸市立盲学校（教育・就労相談）	11
兵庫県立視覚特別支援学校（教育・就労相談）	16
きららの会（若年層の生活・就労相談）	0
堺市立健康福祉プラザ（生活相談）	0
兵庫県立視覚障害者福祉協会（生活・就労相談）※	0
きんきビジョンサポート（生活・就労相談）	8
アイ・コラボレーション神戸（AIスピーカー相談）	3
神戸市立点字図書館（生活相談・サピエ体験）	15
兵庫盲ろう者友の会（生活相談）	10
システムギアビジョン（拡大読書器体験）	25
兵庫県立点字図書館	0
大阪府立大阪北視覚支援学校	0
視覚障害者就労相談人材バンク相談	62
合 計	235

(表5) 支援協力機関・団体と相談コーナー開設数(回)

(総評)

新型コロナウイルスの感染が収束傾向にある中でも相談件数が増えていることから、コロナ禍特有の困りごとだけでなく、さまざまな相談を必要とする患者がいることが「日常」であり、相談は決して特別なことでないと言えます。

また、神戸アイセンター病院では診察を受けるだけでなく、相談できるということが浸透してきた結果ではないかと考えます。

神戸アイセンターが果たす目のワンストップセンターとしての役割は患者や視覚障害者だけでなく、病気ではない一般の方々へも同様に情報提供を行うことも重要であると考えており、病気の予防だけでなく、早期発見につながる検診の必要性をお伝えする必要があります。

視覚障害の有無に関係なく、市民が知りたい情報、必要となる支援をお知らせすることが、視覚障害や視覚障害者に対する正しい理解につながることを考え、今後もさまざまな手段と方法で相談業務の充実を図ります。

3) 遠隔支援サービス

本事業は、理事の仲泊が2017年度～2020年度に行なったAMED研究の一般事業化です。一般眼科に通院する視覚障害者に対してテレビ電話を介して情報提供に取り組みます。需要はあるものの、全国的に広がりを見せているオンライン診療との住み分けが難しく、とくに持続可能な資金調達で課題が大きいままとなっています。昨年度ふるさと納税の活用を試みましたが、それも途上で立ち止まったままとなっています。令和4年度では、神戸iクリニックが開業し、同様のサービスであるオンライン診療が始まったため、当法人としての本事業は一旦様子見で休止といたしました。

(総評)

当法人が神戸iクリニックと共同事業として何ができるかを模索してまいりました。まずは、当該診療所のオンライン診療の後押しが必要と考え、NEXT VISIONセミナーとして高橋理事による理念の説明会を複数回開催しました。今後、当該診療所の運営が軌道に乗ったところで、さらにどのような協力体制が構築可能かについて検討して参ります。

(4) 研究開発事業

情報化社会が進む中で見えない・見えにくい方の生活・就労支援に寄与する最新テクノロジーに関する研究開発を行い、その成果を社会還元することにより、見えない・見えにくい方の社会復帰・社会戦力化支援に資することを目的とします。

1) 眼球運動異常による読書困難の色フィルターによる支援

色フィルターによって読書困難が改善するという報告があります。しかし、その科学的根拠は明確ではなく、眼科保険診療の中でこれを薦めることは現時点では困難です。そこで、当法人の情報提供事業としてまずは、色フィルターが読書困難を改善できるかについての経験を積み、これをもとに研究事業として行なっていくための準備を行います。とくにこのような支援の対象となる方の中にはいわゆる眼筋麻痺とは異なる種類の眼球運動異常が認められるという報告もあり、この両者を比較できるように研究計画を立てていく予定です。

(総評)

現在はまだ、そのような対象となる方を探している段階です。視力低下や視野異常がなくても読書困難を訴える方を対象として、色フィルターによる読書困難の軽減が得られるかについての経験を積み重ねています。実際のところ、そのような方もおられ、喜ばれることも少なくないのですが、再現性に欠けるところも否定できず、まだ、研究計画にはいたっていません。今後も情報提供という枠組みでの色フィルターの紹介を続けていく予定です。

2) 視覚障害者の転落事故低減を目的とする電子歩行補助具の路面環境情報伝達法に関する研究

JR西日本あんしん社会財団の研究費助成金により九州工業大学石井研究室との共同研究で、2021年8月までの事業継続となっていたものです。本年度は、改めて単年度の研究助成を受け、iPhone12のLiderセンサーとApple Watchの振動機能を活用して、より一般的なアプリの開発を行いました。白杖先端のさらに約50cm前方に落ち込みがある場合だけ振動するように設定することにより、ホーム転落の危険を減少できるものを作成することができ、年度末にはその実証実験を兵庫駅和田岬線ホームにて行いました。

(総評)

本研究の成果として、開発したプログラムは、「isee cane」と名づけて Apple のアップストアのベータ版をダウンロードできる TestFlight に置きました。また、これに関連した 2 本の英文論文を雑誌に掲載することができました。ここで本研究事業は一旦終了とさせていただきます。

3) 視覚障がい者職域拡大プロジェクト 強みを生かす！視覚障がい者、活躍の場の拡大へ

株式会社資生堂による令和 3 年度の isee Working Awards での入賞アイデアへの協力事業です。同社に入職された 2 名の視覚障害者の社内サポートとその広報活動に対して、毎月一回のミーティングに初瀬理事、仲泊理事、山田、和田が委員として参加し、継続的なアドバイスを行いました。その結果、当該社員の職場定着が実現し、同社による障害福祉業界での事例報告を就労支援フォーラムおよび isee Working Awards で行うことができました。

(総評)

同社内での視覚障害者による一般業務の定着とそのノウハウの広報に対して支援することで、他社への情報伝播による効果が期待できます。実際に就労支援フォーラムおよび isee Working Awards の後に当事者や就労関係者からの好意的な感想や問い合わせをいただくことができました。

4) 視野障害を有する者に対する高度運転支援システムに関する研究

本事業は、COI-NEXT（研究代表：東北大学眼科）による研究費助成事業の一環として行われているものです。当初の予定では、眼球運動計測システムを導入し、2022 年末までに測定環境を整え、2023 年に視野・視覚障害者ならびに健常者計 30 名の測定を予定していました。しかし、眼球運動計測システムの一部を成す暗室の設置のための許可を施設管理部門から得るのに時間がかかったこと、またシステム設置後の測定環境構築において計測用プログラムが所定の挙動を示さず、その原因究明・問題解決に時間がかかったことから、今年度末までに被験者を対象としてデータを取得するまでには至りませんでした。ただし、これまでに測定環境の構築は終え、デモ計測では問題なくデータが取得できることを確認しました。また研究開始のための倫理審査の承認にもめどがついたことから、来年度早期にデータの取得を開始できる見込みです。

(総評)

被験者データの取得には至りませんでした。実験装置のセットアップは終わり、これからデータを取り集める予定です。

2. 視覚障害者に対する間接支援事業（公益目的事業②）

(1) コンテスト事業

1) isee! "Working Awards"2023

今年で7回目となる「isee! "Working Awards"」は、「就労」に焦点をあて、視覚障害者（見えない、見えにくい人）がどのように働いているのか【事例】、また、どうすれば働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか【アイデア】を募集しました。

応募された【事例】と【アイデア】を審査員に選んでいただき、広く社会に発信することで、視覚障害者の社会参加、就労、ひいては社会の戦力として働き、社会の損失を軽減させることを目的としています。

募集期間：2022年7月1日（金）～10月31日（月）

授賞式：2023年3月12日（日） 12:15～14:45

開催方法：神戸と仙台のリアル会場をオンラインでつなぎ、ZOOM ウェビナーで配信

参加者数は、神戸会場 48 名、仙台会場 46 名、ウェビナー77 名 計 171 名でした。

本年の応募数は、38 件で、内訳は、事例部門が 18 件、アイデア部門が 20 件でした。昨年よりも事例部門は 7 件、アイデア部門は 1 件の増加ではありますが、まだ応募数が少ないため、一層の啓発が必要です。コロナの影響が少なからず出ていると思われます。今後は人の動きも活発になっているので、積極的な働きかけをしたいと思います。

審査の結果、事例部門の入賞が 9 件、事例部門の入選が 8 件でした。また、アイデア部門の入賞が 7 件、アイデア部門の入選が 10 件でした。

事例部門入賞（5 件）				
No	受賞者	種別	タイトル	受賞名
1	大和リース株式会社 人事部インクルージョン推進室	団体	『大和リースの思いやりハンドブック』 誰もがイキイキと活躍できる企業へ	MIP賞
2	小川 みぎ	個人	目が不自由でも自分で選んだ職に就こう！ 子ども達に困まれて保育士15年目	MSP賞
3	Abdin Mohamed	個人	視覚障がい学生向けの就活ワークショップ	MSP賞
4	前北 奈津子	個人	悲しみ乗り越えて。フィールドは変わっても 対人支援のプロを目指し続ける！	MEP賞
5	タートルICTサポート プロジェクト	団体	タートルICTサポート プロジェクト 視覚障害があっても当たり前前に働ける環境を	METP賞 日本眼科医会賞
事例部門入選（4 件）				
1	杉田 啓之	個人	どうして就労を継続できたのだろうか。—RP患者としての企業人生36年—	入選
2	TZ048	団体	視覚障害者が中心に運営する飲食業 TZ048(TZ0フォーティエイト)	入選
3	日本コカ・コーラ株式会社 石黒 友子	団体	社内を超えて社会へ。視覚障害を持つ社員が自ら周囲を巻き込み、大きな周知活動に	入選
4	八巻 真哉	個人	ガム飲みからの人生〜医療、福祉、教育、接客から生まれたヒューマンエンジニア〜	入選
アイデア部門入賞（5 件）				
No	受賞者	種別	タイトル	受賞名
1	小杉 舞奈菜	個人	「視覚障害者ならではの」デザイナー 〜私も使いたくなる可愛いグッズ〜	価値転換賞
2	滝浪 明莉	個人	ハンデを強みにインテリアデザイナー	価値転換賞
3	特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク (SPAN)	団体	無償での遠隔就労PCサポート の実施 公的支援が受けれない視覚障害者を支援	環境整備賞
4	Vixion株式会社・株式会社フレアス	団体	暗所視支援眼鏡MW100の活用により考える マッサージ業界で視覚障害者の就業・生活改善	環境整備賞
5	資生堂ジャパン株式会社	団体	強みを生かす！視覚障がい者、活躍の場の拡大へ	ビジネスプラン賞 日本眼科医会賞
アイデア部門入選（10 件）				
1	山元 正史	個人	ピアサポート にて自己肯定感の相互アップと的確な合理的配慮を目指して	入選
2	青木隆一	個人	「触る」ことを大切にしてきた視覚障害者の強みを生かした資格「触診師」	入選
3	野々垣美名子	個人	スクリーンリーダー-NVDAの解説についての紙書籍の制作と配布	入選
4	上原晋	個人	点字で賞味期限やメッセージを付ける人材を	入選
5	横田 歩	個人	目が見えなくなっても心は寄り添える中途視覚障害者の臨床心理士	入選
6	米川 あみ	個人	目が見えなくても四感を生かして…食の仕事…	入選
7	前川 浩一	個人	NEXT VISION「YouTube」チャンネルの開設	入選
8	大橋 正彦	個人	メディカルビジネスカウンセラー 医療と福祉の隙間を埋める先進的就労支援	入選
9	前川 浩一	個人	ロービジョンサポート 用折りたたみ式モバイルモニター マスコミ 報道！ 視覚障害者の日三連発！	入選
10	神田 信	個人	社会に啓発と当事者に勇気と希望を！	入選

(総評)

応募数は昨年に比べて増加したもののまだ少ないのですが、応募された事例とアイデアはそれぞれ審査員から高く評価されています。企業でのインクルーシブな取り組みが広がっており、応募内容は充実しています。なお一層、本アワードの募集の周知を図り応募数の増加となるよう努めたいと思います。そして、isee!運動を推進し、見えなくなっても社会の一員として互いに活躍できる社会を目指して取り組みたいと思います。

今年の発表・授賞式は、3年ぶりにリアル会場で開催できました。仙台の大型商業施設の会場と神戸会場をオンラインでつなぎ、さらにZOOM ウェビナーで全国に配信するという新たな方法で開催しました。イベント業者に入ってもらい実施しましたが、大きなトラブルもなく盛大に発表ができました。

今年新たに「パイオニアトーク」というインタビュー形式で、これまでの isee! Working Awards で受賞された事例やアイデアのその後の展開やもっと掘り下げて聞きたい内容をたっぷり紹介するコーナーを設けました。今年は昨年受賞された資生堂ジャパンの新たな視覚障害者の通信営業の取り組みと全盲で夢の保育士に挑戦して働いている小川みきさんのお話でしたが、参加者から大変好評でした。感銘を受けたとか、勇気をいただいたという声を多くお聞きしました。ハイブリッドで全国どこからでも参加ができたことは良かったと思います。

受賞者の事例及びアイデアの内容については、公益社団法人 NEXT VISION のホームページで公開し、広く社会の人々に知っていただけるように情報発信をしています。

<https://nextvision.or.jp/prizewinner-2023/>

また、事例とアイデアの内容、審査員のコメントを冊子にまとめた就労事例・アイデア集を作成し、広く本事業の内容を周知させるため配布を行っています。

最後になりますが、本事業の実施に当たり、公益社団法人日本眼科医会の後援をいただき、日本眼科医会賞を選んでいただいたことに深く感謝申し上げます。

2) サンキューカードを使った周知啓発

見えない、見えにくい方の移動を多角的に支援するために正しいガイドの仕方を一般の方に周知するとともに、一人でも多く就労・就学で困っている視覚に障害のある方を見つけることを目的に配布しました。また、視覚に障害のある方を見つけ、必要な情報・支援につなげる活動を見えない、見えにくい視覚に障害のある方にお手伝いいただくことで活躍の場を広げる効果もあります。



おもて面

うら面

配布する地域は視覚障害者の活動地域となるため全国であり、昨年度に引き続き、下記団体等を通じて配布しました。

特定非営利活動法人タートル
社会福祉法人日本ライトハウス 情報文化センター
社会福祉法人日本ライトハウス リハビリテーションセンター
国立神戸視力障害センター
堺市健康福祉プラザ
兵庫県視覚障害者福祉協会
日本網膜色素変性症協会
日本視覚障害者団体連合
神戸市立盲学校
兵庫県立視覚特別支援学校
埼玉県立盲学校
岡山県立盲学校
社会福祉法人神戸市社会福祉協議会
神戸市立点字図書館
非営利活動法人神戸アイライト協会
株式会社システムギアビジョン
株式会社尼崎眼鏡院
HOT POT の会

三輪書店（「ポイントマスターロービジョンケア外来ノート」に付属）

さらに、今年度は東北大学 COI NEXT「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワメント社会共創拠点に参加することで配布先および配布枚数の増加を図りました。

トラストメディカル：10,000 枚（仙台の支援機関、医療機関等へ配布）、イオンモール新利府：10,000 枚（3/11-12 イオンモール新利府南館で実施された目の健康イベント『「見える」が変わると「世界」が変わる カラダとココロのおもしろ体験イベント』で配布するなど、これまでつながりのなかった場所や人に配布できました。

（総評）

カードを配布された一般の方にとっては、視覚障害者への声のかけ方や手引きの仕方を知る機会となり、社会貢献の一助となる可能性が生まれたと考えます。

isee! Working Awards のアイデアから生まれた本事業は、さまざまな用途に使えるオリジナルの情報提供カードであり、東北大学 COI NEXT「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワメント社会共創拠点に参画する企業・団体に広がる可能性があり、今後も継続配布が期待されます。

（５）講演・セミナー事業

1) 被災視覚障害者支援・避難所疑似体験セミナー

10月1日と2月26日にビジョンパークを避難所に見立てて、スマートフォンのアプリを使っての移動（ナビタグ）、掲示物の判別の体験、さらに簡易トイレの設営や非常食の調理および手回し式の充電器の体験を行いました。2月の回では、これらに加えさらに遠隔音声ガイド（アイコサポート）の体験も加えました。10月には3名、2月には4名の参

2) ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノート行間セミナー

「ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノート」をテキストとした有料 web セミナーを6月から3月までの毎月1回行いました。主に本書の執筆者を講師として、15分程度の講演2本をzoomで配信し、過去の講演とともに当法人の特別サイトで会員に対しての限定公開を行いました。毎回50名程度のライブ参加でしたが、会員は150名となり、年会費として78万円を得ることができました。

(総評)

今回で3年目となる有料セミナーです。固定層として100名程度の会意が定着しました。昨年度とは異なり、基礎編は割愛して質疑重視の会を展開しました。次年度も趣向を変えてさらに発展したいと考えています。

3) ロービジョン支援ホームページの運用

COI-NEXTの研究費助成を活用して、NEXT VISIONのサーバー上に移設したロービジョンケアの用語説明と施設リンクを目的としたホームページ

(<https://nextvision.or.jp/shikakuriha/>)の大幅な改修を行いました。リンクされた施設情報の更新がこれまで困難で、5年に一度の大改修を要していましたが、これからは、随時変更が可能となりました。

(総評)

見た目をNEXT VISIONの他のページと似せ、音声対応も改善しました。5年前に施設リンクを回収した際に連絡した団体だけでなく、改修のお知らせをしたところ、リンクの希望と改修の連絡が入りました。これらをすぐに改修できることは、情報を古くさせず、利用する方の満足度を上げることができると思います。

4) シャルル・ボネ展

視覚障害に伴う幻視をシャルル・ボネ症候群と言います。この症状を持つ当事者でアーティストであるセアまり氏による作品の展覧会を5月11日から25日に、ビジョンパークで行いました。また、5月11日には、セアまり氏によるトークショー（ハイブリッド）を開催し、52名が参加しました。

(総評)

シャルル・ボネ症候群は、多くの視覚障害者が経験するものの、精神疾患との見分けが付きにくいいため、人知れず不安に思っている症状です。欧米でのロービジョンケアでは説明することが当たり前になっているものの、本邦では、眼科医療においてすらあまり知られておらず、視覚障害者の無駄な不安を呼び起こす原因となっています。本事業では、この症候の広報とともに、セアまり氏の幻想的な作品に触れ、ビジョンパークでの文化的体験を実現することができました。

5) 日本眼科医会連携

地方においては視覚障害者が最初に受診する可能性が高いのは地域の眼科クリニックであり、全国の眼科クリニックの開業医が所属する日本眼科医会と連携しました。引き続きがisee!運動での眼科医賞の追加や日本眼科医会のHPと連携などを通して開業医の眼科医への情報発信を継続予定です。

(総評)

視覚障害者の最初のアクセス先である眼科の開業医が所属する日本眼科学会との連携は、視覚障害者を情報障害に陥らせないためにも大きな意義があります。今後もさまざまな文脈で連携を深める予定です。

6) 視覚障害者体験 VR 研修

視覚障害者が周囲の人に自分が視覚障害者であり困難さを的確に伝えられない背景には、視覚障害の種類や困難さの多様性を周囲のメンバーが認識しにくい背景があります。VR を利用した教育コンテンツでは1人称で困難さを理解することができるため、支援者教育の強力なコンテンツとなり得るため、VR コンテンツの開発の指導を行い、教育ソフトを開発しました。

(総評)

製品が無事開発が終了したため、現在5台購入予定で今後は研修ツールとして実践活用予定です。

(6) 支援者向け体験事業

1) パッチ・アダムス招致企画 夢の病院からビジョンパークができるまで

豊かに生きるための知識と習慣の処方箋として、人生100年時代を人が健やかに生きるため、心と体がウェルビーイング（ご機嫌）になるための考え方や行動習慣などをウェルビーイングを実践する専門家に学び、対話を通して学ぶイベントを実施しました。

本イベントは東京で開催となり、神戸へはパッチ医師の訪問見学のみ実施(6/23)。

2) TEAM EXPO2025 共創チャレンジ企画 Navilens によるスーパーシティ化大作戦

ナビレンスやコード化点字ブロック、shikAI など主に点字ブロックに情報を付加する二次元コード設置の検討（実証実験）と普及する活動を開始しました。

これらの二次元コードは白杖および点字ブロックと併用することで安全、便利に使用でき、視覚に障害のある方だけでなく誰もが利用可能なルート案内等の情報提供が可能で、二次元コードの総称をナビゲーション・タグ（通称ナビ・タグ）と呼び、2025 大阪・関西万博での運用を目指しています。

そこで、TEAM EXPO2025 共創チャレンジにプロジェクト名「ナビタグで未来を変えるプロジェクト」として登録し、活動を継続しました。

<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/175>



isee! 運動

ナビタグで未来を変えるプロジェクト

2017年12月、「神戸アイセンター」が開業しました。「isee! 運動」の「i」は「iPS」の「i」でもあります。

iPS 細胞の世界初めての臨床応用は網膜で、視覚障害者の方々にとっての福音となりました。

が、眼の問題については再生医療の力だけで解決されるものではありません。

根気よいリハビリ、進化したデバイス、そして何より必要なのが、社会が受け容れる姿勢作りです。

だれ一人取り残さない世界の実現を目指してひとりひとりしっかりと見つけ、障害があってもなくても、

お互いを支えあえるインクルーシブな社会を実現するために「チーム OTAGAISAMA」はナビタグの使いやすさを追求し、

2025 に開催される大阪万博、そして日本中への普及を目指します。ご協力の程よろしくお願ひ致します。

チームOTAGAISAMA (おたがいさま)

敬称略・五十音順 2023/4/1現在

アジャイル開発 グループ

金沢工業大学
松井くにお
近畿大学
柳原崇男
きんきビジョンサポート
原田敦史・山口成志
リンクス株式会社
小西祐一・高橋秀徳

普及・販売 グループ

大崎工業株式会社
近田光昭・土谷高正
篠原電機株式会社
(川崎重工・パソナテック)
兼崎暁美

協力：神戸市

アドバイザー・ ユーザーグループ

アイ・コラボレーション
神戸
板垣宏明・北山ともこ
海瀬 一・穴田健太郎
園 順一・丸井人美
きんきビジョンサポート
竹田幸代・海老澤弥生
日本インクルーシブ
クリエイターズ連盟
本間英一郎・川口育子
日本視覚障害者団体連合
竹下義樹

オブザーバー

株式会社Ashirase
千野 歩
大阪公立大学 今津篤志
株式会社コンピュータ
サイエンス研究所
高田将平
有限会社ティクス
竹内潔
株式会社日本設計
柴家志帆
株式会社プライムアシス
タンス 藤田玲子
PLAYWORKS
タキザワケイタ
株式会社リテラル
船越隆之

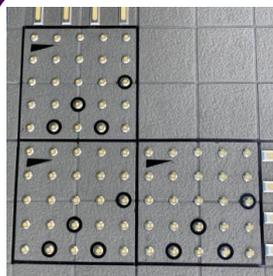
チームOTAGAISAMA (おたがいさま) 事務局：公益社団法人NEXT VISION

仲泊 聡・三宅 琢・和田浩一・山田千佳子

現在、10 機関・団体、24 名のメンバーとオブザーバーとして 8 団体、8 名がチーム OTAGAISAMA (おたがいさま) として活動しています。

今年度はナビ・タグ評価 (属性ごとの使いやすさ、課題抽出など) を行うため、神戸やまぶき材財団の助成金を得て、ポートライナー・医療センター駅に「コード化点字ブロック」の敷設を行いました。

神戸アイセンター一周辺で実装！



コード化点字ブロック
点字ブロックと併用△との印をつけるだけでこのような紙を使用した点字ブロックにも情報を付加できます。



提供したい情報に合わせて、壁や床、点字ブロックと併用することが可能で、後付けも簡単です。情報の変更も管理画面から行え、常に最新の情報にアップデートできます。



NaviLens (ナビレンス)
壁貼り 21cm四方のサイズのタグで約12メートル離れたところから読み取りが可能です。

ナビ・タグ評価のための実証実験は神戸アイセンターのほか、ポートライナー・三ノ宮駅と医療センター駅、神戸市営地下鉄などでも実施しました。

(総評)

2023年度は shikAI (シカイ) を敷設し、実証実験を継続する予定で、ナビタグ敷設のガイドライン作成し、公開する予定です。

また、視覚に障害のある方だけでなく、一般市民にも実際に使ってもらって便利さを実感していただけるように普及を進めるため、ガバメントクラウドファンディングを活用して、2024 神戸世界パラ陸上に向けた準備の一つとしてさらに設置を進める予定です。さらに、大阪・関西万博 (2025年4月13日～10月13日) での実装を目指していますが、それが最終ゴールではなく、社会インフラとして神戸市をはじめ、日本国内に定着するよう、助成金や補助金を取得しながら活動を継続します。

(7) 出版事業

1) 「プライベートあい～名探偵になってあげないゾ!～」出版プロジェクト

小説あるいは漫画といった親しみやすい形で等身大の当事者を多くの人に感じてもらい、当事者の方には「視覚障害者だからこそ優れている能力がある」というバリアバリューに気づいてもらうことを目的として、出版事業に取り組みました。

しかし、出版社や広告代理店等に持ち込んだところ、実現には至っておらず、次年度以降も相談・交渉を重ねます。

3. 収益事業

(1) ビジョンパークを活かした情報発信

本事業は新型コロナ感染拡大対策のため行うことができませんでした。今後も状況をみながらの実施になる予定です。

(2) みんなで作るビジョンパーク会議

2022年12月に神戸アイセンターが5周年を迎えたことから、今年度は記念式典および講演会を開催しました。

寄附者、賛助会員、連携協力機関の方をご招待し、活動報告を行うとともに神戸アイセンターの今後の構想を発表しました。

2022/12/4 神戸アイセンター5周年記念式典・記念講演会

15:00~15:30 記念式典、15:45~17:15 記念講演会

場所: 神戸ポートピアホテル トパーズ (式典)、大輪田 A (講演会)

主催: 神戸市、株式会社ビジョンケア、地方独立行政法人神戸市民病院機構、公益社団法人 NEXT VISION

プログラム

(1) 記念式典

- ① 主催者あいさつ 神戸市民病院機構理事長 橋本信夫
- ② 来賓あいさつ 兵庫県眼科医会会長 古川清実
神戸市眼科医会会長 曾谷治之
社会福祉法人日本視覚障害者団体連合会長 竹下義樹
- ③ 5年間のあゆみ紹介 神戸アイセンター病院院長 栗本康夫
- ④ 記念ビデオ上映
- ⑤ キャッチコピーお披露目、ヨシタケシンスケ氏関連発表

(2) 講演会

- ① 記念動画、キャッチコピーお披露目
- ② 主催者あいさつ 公益社団法人 NEXT VISION 代表理事 三宅養三
- ③ 講演
 - ・神戸アイセンター病院院長 栗本康夫
「iPS細胞が切り拓く眼の再生医療」
 - ・株式会社ビジョンケア代表取締役社長 高橋政代
「アイセンター構想/今後の展開」

参加人数:

- ・記念式典: 参加者 99名 (参加予定者 108名)
- ・記念講演会: 参加者 170名 (参加予定者 218名) ※式典参加者除く
- ・マスコミ取材: 4社 (NHK は 12/5 (月) 朝のニュースで放送)

(総評)

当日、会場にお越しいただけなかった寄附者、賛助会員、協賛企業の方々にも報告書をお送りし、NEXT VISION で実施している事業、活動内容を報告すると共に今後神戸アイセンターが目指す目標をお伝えできました。

今後も NEXT VISION の活動やビジョンパークの役割を説明し、継続的にご支援をいただけるよう情報を発信し続けることで法人の運営を安定させ、より多くの視覚に障害のある方と情報を必要とするすべての方への支援活動を行いたいと思います。



II. 法人運営

1. 理事会

第21回 令和4年6月6日

議題

1. 令和3年度の事業報告及び計算書類の承認
2. 社員総会の招集と議案等の承認
3. 理事の任期満了に伴う後任者選任の承認

第22回 令和5年2月1日

議題

1. 令和5年度の事業計画及び収支予算・資金調達及び設備投資の見込を記載した書類の承認
2. 役員報酬規程改定の承認
3. 会員の入退会及び会費に関する規程改定の承認
4. 社員総会の招集と議案の承認
5. 職務の執行状況について報告

2. 社員総会

第19回 令和4年6月20日

議題

1. 令和3年度の事業報告及び計算書類の承認
2. 理事の任期満了に伴う後任者選任の承認

第20回 令和5年2月1日

議題

1. 令和5年度の事業計画及び収支予算・資金調達及び設備投資の見込を記載した書類の承認
2. 役員報酬規程改定の承認
3. 会員の入退会及び会費に関する規程改定の承認